



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	まえがき : 高等教育改革の比較展望 : ポートランド州立大学と北海道大学の経験
Citation	高等教育ジャーナル, 特別, 4-5
Issue Date	1997
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29788
Type	editorial
File Information	Tokubetu_P4-5.pdf



まえがき

高等教育改革の比較展望

ーポートランド州立大学と北海道大学の経験ー

この高等教育ジャーナル - 高等教育と生涯学習 - 特別号は、アメリカと日本の2つの大学、ポートランド州立大学と北海道大学から、高等教育の在り方を展望する。これらの2つの大学は高等教育機関の中できわめて異なる歴史ときわだって特徴的な使命をもっている。この両大学の研究者、教育者で、高等教育の将来を展望、比較する機会をもてたことは、私どもにとって望外の喜びである。

はじめに、特別号の内容を述べるまえに、両大学を簡単に紹介する。

ポートランド州立大学は、1946年にヴァンポート学外教育センターとして創設、1952年にポートランド市内に移転、1955年に4年制のポートランド単科大学となり、1961年にはさらに学科目を追加して、1968年に大学院を開設、1969年に総合大学に認定された。その後、ポートランド州立大学は急速に発展し、今日では、大学院生4,200人を含む学生数15,000人の米国オレゴン州最大の大学となっている。この大学は、教養学部、ビジネス管理学部、教育学部、工学部、芸術学部、社会学部、都市公共行政学部、学外教育部から構成され、32種の学士号、38種の修士号、7種の博士号（教育、電子・コンピュータ技術、環境科学・資源、公共管理・政治、社会労働・社会調査、システム科学、都市計画）を授与している。また、15,000人の学生の他に、25,000人に対して学外教育で単位認定および非単位認定コースを提供している。

「市民のための学識」を理念に掲げて、ポートランド州立大学はオレゴン州の都市型大学としてポートランド市とその周辺地域の要求と関心に応えることを追求している。そして、教育、研究、奉仕の精神を通じ

て、質の高い学部教育、大学院教育、学外教育、社会奉仕に打ち込んでいる。

一方、北海道大学は、1876年に米国の大学をモデルに、日本の近代化に貢献すべく札幌農学校として創立され、日本で最初の学士号を与える大学となった。その後は、日本の近代化とともに発展し、1947年には現在の国立大学に位置付けられた。今日では、4,400人の大学院生を含む15,000人の学生を抱え、12の学部・大学院と一つの独立大学院からなり、基幹総合大学の一つとして研究大学である大学院重点大学への移行を推進している。

両大学では、ポートランドと札幌が姉妹都市であることから交友がはじまり、1972年には姉妹提携をして、さらに友好関係を深めてきた。また、近年、ともに社会と教育体制の変化に応じて大きな改革を推し進めることとなり、多くの分野で改革を企画、検討、実施し、さらに、これらの改革を促進するセンターをスタートさせている。太平洋をはさむ2つの大学は、制度転換と改革に類似点と相違点を認める。この特別号では両大学で進行している一般教育と入学試験制度の改革、高等学校と大学教官との協調、地域への大学公開、教えることと学ぶことにおける教師と学生の役割の変化を比較検討することにする。

この特別号には、ポートランド州立大学から7編、北海道大学から10編の高等教育に関する様々な論文が集められている。これらの論文は、1)それぞれの大学の教育に関する歴史、改革への努力、2)改革の哲学、改革への外的要求と内的改革との関連、学生中心の教育、教えることから学ぶことへの転換、3)一般教育の改革、大学改革への社会的要求、地域社会人

の生涯学習, 4) 大学入学試験の改革, それに必要な高等学校と大学との連携研究, 新しい大学入学規準などについて述べている。また, 最後に, 日本の一般の読者に米国側の論文内容が理解しやすいように, 教育に関する用語(英語)について日本語による解説を加えた。

この特別号を実現するにあたっては, 多くの方々にお世話になった。編集作業では, ポートランド州立大学のローラ・キャセイ, ウィリアム・フィッシャー, キャンディス・ゴウチャー, バーバラ・ホーランド, デボラ・リーベルマン, ジュディ・パットン, シェリー・リース, マイケル・トス, アンソニー・ウォーク, オレゴン大学のケネス・ケンブナー, ノース・コロラド大学のフランシス・グリフィス, インディアナポリスにあるインディアナ大学パデュー大学のウィリアム・

プラター, ハワイ大学のリチャード・プラット, ペン州立大学のジェームス・ラットクリフ, 北海道大学の小笠原正明, 西森敏之, 細川敏幸の諸氏にご支援いただいた。ご尽力に深く感謝する。また, 出版作業を援助していただいた和田昌武, 石田 亘, 山田義久, 細川富生, 氏間泰子の諸氏に心から謝意を表する。

これらの論文を日本語と英語とで出版することはきわめて有益なことであるが, 現実的には要旨のみを両方の言語とした(少数は2本の記事の要約も付記したが)。私どもは, ここでの少しの相互翻訳でも, 両国において高等教育改善に関心をもつ方々の情報交換を強化するすることに役に立つことを希望し, さらに互いに多くを学び続けることを信じ, この特別号がさらなる対話と研究を刺激することを望む。

編者を代表して

ステフェン・リーダー(ポートランド州立大学)
阿部 和厚(北海道大学)